

夏季特別陳列②

福井藩と城下町

- 主催 福井市立郷土歴史博物館
 - 会場 2階 企画展示室
 - 会期 令和2年7月23日(木)～8月30日(日)
 - 休館日 8月11日(火)
- ※新型コロナウイルスの影響により変更される場合があります。

慶長5年(1600)に福井藩祖結城秀康が父徳川家康から越前一国を拝領して、令和2年(2020)は420年目を迎えます。秀康から始まる親藩福井藩とその拠点となった城下町「福井」のあらしを、古文書や記録、福井城や福井城下の絵図、福井城の襖絵の屏風、福井城の瓦などを展示して紹介します。

第一章 親藩福井藩

1 福井藩の成立と越前松平家

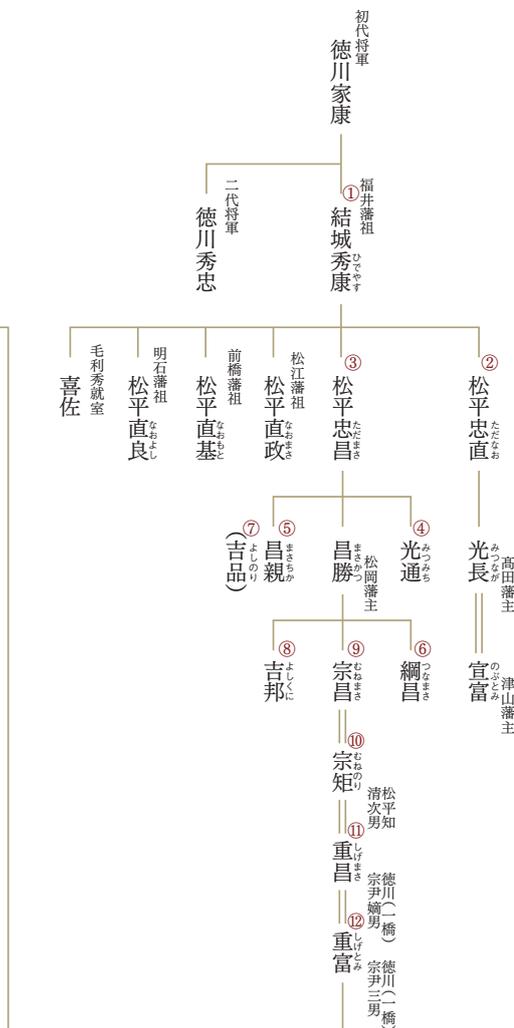
慶長5年(1600)、関ヶ原の合戦で東軍が勝利すると、天下人・徳川家康は次男の結城秀康(結城城主、10万1000石)に越前国(68万石)を与え、親藩福井藩が創設された。秀康の時代には万石以上の家臣が11人もおり、支城制を採って領内の要地に重臣たちを配置した。なお、大坂の陣で活躍した2代忠直以降の藩主は、代々松平の姓を称した。

元和9年(1623)に忠直が豊後国に配流されると、寛永元年(1624)に嫡子光長は越後高田藩主(25万石)となり、高田藩主であった忠直の弟忠昌が越前に入封した。忠昌は北庄を福居(後の福井)と改めた。また、同年忠昌の弟の直政(大野藩)・直基(勝山藩)・直良(木本藩)や、福井藩の付家老本多成重(丸岡藩)が越前国内で大名となった。

福井藩の大まかな領知高の変遷は、寛永元年に50万石、貞享3年(1686)に25万石、享保6年(1721)に30万石、文政元年(1818)に32万石となり、廃藩を迎えた。

家康の次男秀康を初代とする越前松平家は、御三家・御三卿を除く、徳川將軍家の親族として「御家門(家門)」と称し、その筆頭として格式を重んじられた。また、同家では、11代將軍家斉の子息斉善が養子となった他、御三卿の一橋徳川家から重昌・重富が、田安徳川家から慶永(春嶽)が養子に入り、福井藩主となっている。

福井藩・越前松平家系図



結城秀康像 運正寺蔵

○は藩主の代数を示している。
「—」は父子、「—」は養子関係を示している。
※この系図は、「御系図」(松平文庫)を参考作成した。

2 藩の役職と財政・村と年貢

福井藩の職制は役方と番方やくかたに分かれ、役方は藩の行政・司法・財政などに関わる役職からなり、番方は藩主や城の警固など軍務に関わる役職が多い。家臣は上位の士分しぶんと下位の卒そつに分けられ、その中にも上下の違いがあった。家臣たちは身分と格式に応じた役職に就いた。

家臣の筆頭は府中本多家で、その次に「高知席」と称する家格の16家があり、この中から家老や城代が選出された。家老は最も重要な役職で、藩の主要な政務を掌ると共に、家臣たちを統率した。

藩の歳入は田畑などに賦課した「本年貢（本途物成）」に頼る部分が大きく、藩の直轄地（蔵入分）も少なかったことから財政的に余裕がなかった。藩は寛文元年（1661）に財政難から藩札を発行したが、同9年の城下大火で福井城が焼失し、さらに貞享3年（1686）に領知高が25万石に半減されたことで、財政は逼迫した。

そのため藩は家臣の給禄を半減し、領民に御用金を課したほか、上方や江戸の商人から借用を重ね、幕末の藩主春嶽（慶永）の時代には、90万両を超える累積債務があった。

藩の年貢率は村々でばらつきがあり、平均3割程度であったが、小物成こものなりなど他にも徴収されるものがあり、生活に困窮する百姓も多く出た。また18世紀に入ると領内では百姓一揆も多発するようになった。



福井藩札（寛文2年） 金屋吉宏氏蔵

3 幕末の福井藩

幕末期の福井藩は、16代藩主松平春嶽（慶永）を中心に、国政の舞台で大きな影響力を発揮した「雄藩」の一角として知られる。

福井藩は15代齊善なりさわの時代まで慢性的な財政難に苦しんでいた。天保9年（1838）に藩主を継いだ春嶽は、藩主・大奥の生活費や家臣の俸禄を削減することで支出を抑える一方、西洋科学技術の導入や藩校明道館の整備、外国との交易などに積極的な投資を行い、藩の「富国強兵」化を推し進めた。



堆朱カメラ 当館蔵

また、橋本左内や三岡八郎（由利公正）などを改革の担い手として抜擢ぼつてきするとともに、熊本藩から横井小楠を政治顧問として招聘しょうへいするなど、有能な人材の発掘に努めた。

改革によって国力を高めた福井藩は、春嶽を旗印として国政の重要事項に深く関与していくようになる。13代將軍徳川家定の後継者問題では、春嶽は一橋慶喜よしのぶを次期將軍に推す一橋派のリーダーとして積極的な運動を繰り広げるが、安政5年（1858）から始まる安政の大獄で失脚し、腹心橋本左内を失った。

文久2年（1862）に春嶽が幕府の政事総裁職として復権すると、福井藩は公議公論を重視する立場を明確にし、独裁の色を強める幕府と武力倒幕に向かう薩長両藩との衝突回避に力を注いだ。

第二章 城下町「福井」

1 福井城の修築と再建

慶長6年（1601）に初入国した藩祖結城秀康は、「福井城（北庄城）」を越前一国を統治する大大名に相応しい城とするため、大修築に取り掛かると共に、城下町の整備を進めて、領国支配の拠点とした。

福井城は本丸を中心に、同心円状に堀と石垣が三重四重に取り囲む、「環郭式城郭」と呼ばれる形式の平城である。その修築に当たっては、城の内部を流れる吉野川（旧荒川）の東方に新たに新川（荒川）を開削し、吉野川を「百間堀」（JR福井駅前付近）として利用するなど、大規模な工事が進められ、同11年に完成をみた

その後、城下は、万治2年（1659）と寛文9年（1669）の2度にわたり、大火に見舞われたが、寛文の大火では、福井城の大部分が焼失し、本丸の北西隅で威容を誇った四重（内部5階）の天守も焼け落ち、以後再建されなかった。一方、「本丸御殿」は再建され、その中にあった「鶴之間」の襖絵の一部が、屏風に仕立てられて伝存しており、御殿の内部が大変優美な空間であったことが窺える。

明治4年（1871）の廃藩置県以降、「福井城」は堀の埋め立てが徐々に進められ、城門や櫓などの建築物も解体されていったが、その遺物として、主要な櫓の屋根に飾り付けられていたと考えられる鯨瓦が、越前松平家に伝来している。



群鶴図屏風 福井県立美術館蔵（福井県指定文化財）



福井城鯨瓦 個人蔵

2 城下町の景観・町とくらし

江戸後期から明治前期にかけて、福井城下全体やその一部を描いた絵が作成された。その目的のひとつは、失われてゆく福井城のすがたを後世の人に伝えるためであった。

城下町全体を上空から眺めたように描いた絵に「福井城下眺望図」がある。この絵からは、福井城や武家屋敷、町家や寺院、北陸道などが、城下町の中でどのように配置されていたのかを知ることができる。



福井温故帖 本丸登城之図 越葵文庫 当館保管

また、福井城の建物や武家屋敷、九十九橋などの絵は、幕末から明治初期頃の景観をスケッチ風に描いたものである。本丸や御座所、武家屋敷については平面図も残されており、両方を見比べることで理解も深まる。

さて、江戸後期の福井城下には200以上の町人が住む町があり、弘化4年（1847）の記録では町方に2万269人の住民が生活をしていた。ここでは、城下の南部、北陸道に面した「木田東町」を取り上げてみたい。

幕末期の「木田東町」は、通り（北陸道）を挟んで25軒の家が立ち並んでおり、そ

の内の6軒は借家であった。1軒は平均4、5人の家族からなり、3世代で住む家もあるが、70歳以上の高齢者はいなかった。職業は衣料や食品を商売にする者が多く、大工や屋根屋、桶屋など職人も住んでいた。住民は町内と近隣の町で日用必需品を購入し、家の修繕も町内で頼むことができたようである。

出品目録

第一章 親藩福井藩

1 福井藩の成立と越前松平家			
○結城秀康と福井藩の成立			
1	結城秀康小像	1点	越葵文庫 当館保管
2	結城秀康像	1幅	運正寺蔵
3	徳川秀忠書状	1幅	越葵文庫 当館保管
4	結城秀康書状	1通	個人蔵
○松平忠直と大坂夏の陣			
5	大坂夏の陣図屏風（複製・右隻）	半双	当館蔵（原本は大坂城天守閣蔵）
6	茶壺「初花」	1口	越葵文庫 当館保管
7	松平忠直書状	1通	個人蔵
○松平家と徳川家			
8	御当家並越前松平家系図	1巻	越葵文庫 当館保管
9	越叟夜話	1冊	当館蔵
10	一字折紙	1通	松平文庫 福井県文書館保管
2 藩の役職と財政・村と年貢			
○藩の役職			
11	福井藩役々勤務雑誌 天	1冊	松平文庫 福井県文書館保管
12	諸役年表 一	1冊	松平文庫 福井県文書館保管
13	奥女中次・右筆・具服之間起請文	1通	松平文庫 福井県文書館保管
○藩の財政			
14	延宝五辰年御成箇帳写	1冊	松平文庫 福井県文書館保管
15	天保五午未申三ヶ年平均御地盤御本立帳	1冊	当館蔵
16	福井藩札（寛文2年）	2枚	金屋吉宏氏蔵（当館寄託）
17	福井藩札帖	1冊	当館蔵
18	銀子年賦証文	1通	松平文庫 福井県文書館保管
○年貢と村			
19	年貢免状	1通	毛利恒夫氏蔵（当館寄託）
20	越前国坂井郡名蹟考 上	1冊	毛利恒夫氏蔵（当館寄託）
21	在々御条目	1通	毛利恒夫氏蔵（当館寄託）
22	丑年帳	1冊	福井県立図書館蔵
3 幕末の福井藩			
○藩政改革			
23	堆朱カメラ	1台	当館蔵
24	明道館諸役輩名簿（橋本左内筆）	1冊	福井市春嶽公記念文庫
25	館務私記（橋本左内筆）	1冊	福井市春嶽公記念文庫
26	越前国是三条（横井小楠筆）	1冊	横井和子氏蔵（当館寄託）
○中央政局への関わり			
27	松平春嶽手形並に和歌の幅	1幅	当館蔵
28	家譜 茂昭公 （拳藩上洛に付き御用金賦課の達し）	1冊	越葵文庫 当館保管
29	四老公写真衝立	1基	福井市春嶽公記念文庫
○幕末維新の貨幣と福井藩			
30	文久銭（文久永宝）	3枚	福井市春嶽公記念文庫
31	太政官札	2枚	当館蔵
32	家譜 茂昭公（金札製造に付き達し）	1冊	越葵文庫 当館保管

第二章 城下町「福井」

1 福井城の修築と再建			
○秀康の福井城の大修築			
33	家譜 秀康公	1冊	越葵文庫 当館保管
34	天守絵図	1舗	当館蔵
35	北庄城下絵図	1幅	越葵文庫 当館保管
36	福城御門々名	1通	当館蔵
○城下町の変遷			
37	福居御城下絵図 （複製・縮小版・貞享2年）	1幅	原本は松平文庫 福井県文書館保管
38	御城下絵図 （複製・縮小版・正徳4年）	1幅	原本は松平文庫 福井県文書館保管
○寛文の大火と再建された福井城			
39	家譜 光通公	1冊	越葵文庫 当館保管
参考 本丸御建物図（部分・写真パネル） 原本は松平文庫 福井県文書館保管			
*40	群鶴図屏風	6曲1双	福井県立美術館蔵
○城と武家屋敷の瓦			
41	鯉瓦・福井城と武家屋敷の瓦	一括	個人蔵・当館蔵
2 城下町の景観・町とくらし			
○城下町の景観			
42	福井城下眺望図	1巻	福井市春嶽公記念文庫
43	福井城旧景図屏風	1隻	当館蔵
①福井城本丸			
44	福井温故帖（本丸登城之図）	1冊	越葵文庫 当館保管
45	御本丸御指図	1舗	菅沼巖氏蔵 福井県文書館寄託
②御座所			
46	福井城旧景（御座所玄関）	1枚	当館蔵
47	御座所御絵図	1舗	松平文庫 福井県文書館保管
③武家屋敷			
48	福井城旧景（狛木工邸）	1枚	当館蔵
49	狛屋敷図	1幅	福井市春嶽公記念文庫
④九十九橋			
50	福井温故帖（九十九橋全景之図）	1冊	個人蔵
○町とくらし			
51	木田東町家数帳	1冊	氷川東町内会蔵
52	人別増減改帳	1冊	氷川東町内会蔵

※福井県指定文化財

展示解説シート No.133

令和2年7月23日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489
担当 印牧信明

印刷 宮本印刷

次回の展示

秋季特別展 北陸の古刀

令和2年10月10日（土）～11月23日（月・祝）